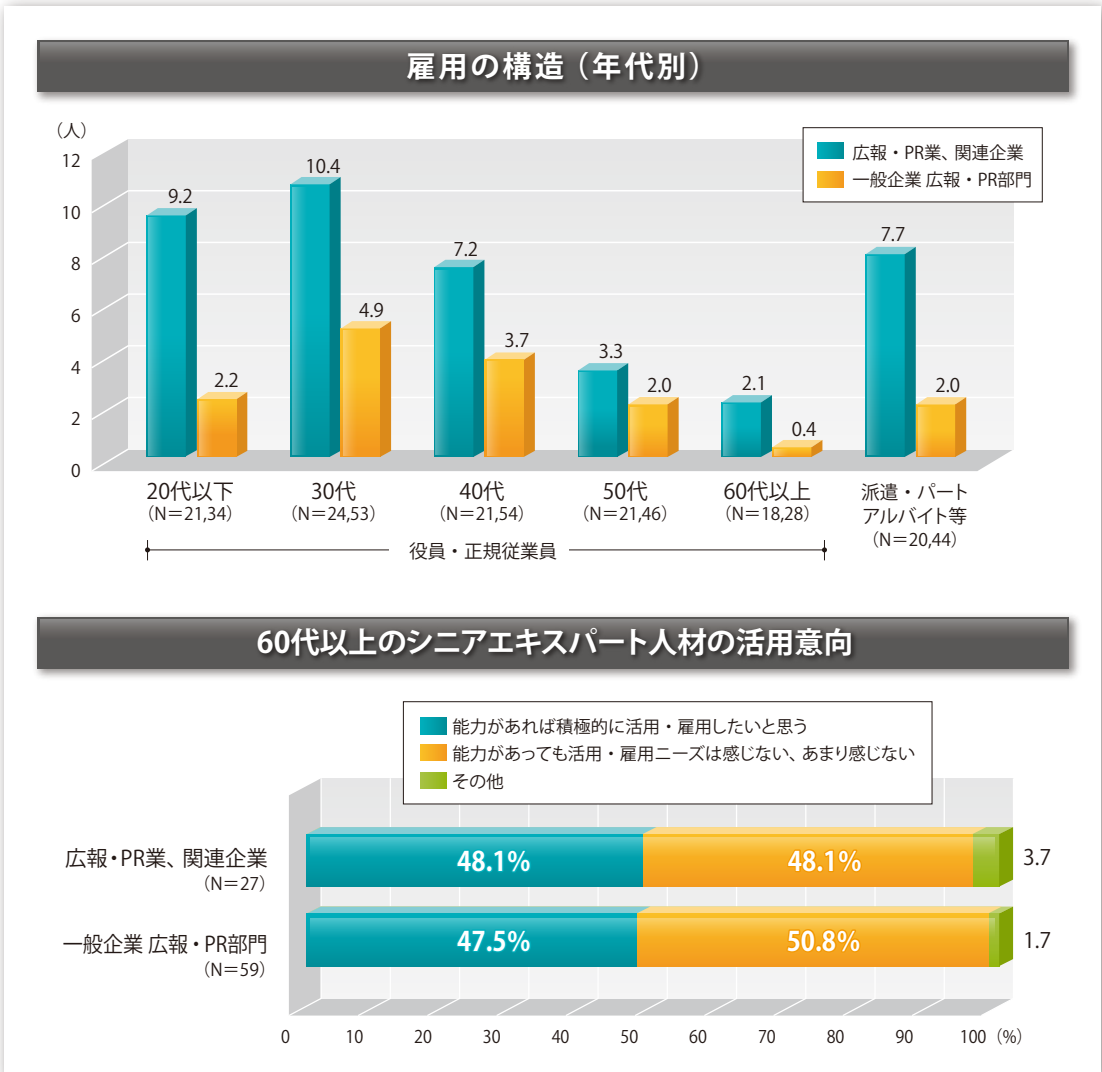


広報・PR分野の雇用の状況と 高齢者へのニーズ^{※3}

広報・PR分野では20代～40代の雇用が中心になっています。
 シニアエキスパート人材を活用したい意向を持つ企業は約半数です。



「広報・PR業、関連企業」では、20代～30代の就業者が中心であり、「一般企業 広報・PR部門」でも20代～30代が多いようです。広報・PRでは実際の仕事の現場においても若い層が活躍できる業務が多いという声も聞かれます。

しかし調査結果からみると、60代以上のシニアエキスパート人材の活用意向については「広報・PR業、関連企業」、「一般企業 広報・PR部門」ともおよそ半数の企業が「能力があれば積極的に活用・雇用したいと思う」と回答しています。

※3 「平成20年度 広報・PR高齢者雇用推進事業 調査報告書」に基づいています。

シニアエキスパートの活躍

広報・PR業関連企業や一般企業の広報部門においても60代以上のシニアエキスパート人材が活躍しています。

60歳以上の活躍事例（企業アンケートより抜粋、編集）

- ・一般企業を定年退職した人材が在籍しており、通常業務はもちろん、**若手人材の育成**にも活躍している。
- ・当社では若い社員が多いので、「仕事とは何か」、「会社とは何か」という基本的なことまで伝えることのできる経験豊富な**指導者**の声は重要である。

広報・PR業、 関連企業

- ・広報・PRの仕事は**コンサルティング業務**であり、その人が持っている専門知識、経験の質の高さで十分に活躍できている。

- ・一般企業の**管理部門**でキャリアを積んできたシニア人材が十分に能力を発揮している。
- ・当社ではほとんどの従業員が20代～30代と若いため、経験豊富な先輩による**若手従業員の指導**が必要であると考えている。

- ・現在は退職されたが、幅広い人脈を活かした**アドバイザー的な役割**で活躍してもらった人材が在籍していた。

- ・メディア出身のベテラン人材の場合、**豊富な人脈を活用して、取材対応などで活躍**してもらった。
- ・広報責任者を経験した企業出身者の場合、**広報アドバイザーとして、メディア人脈の紹介や危機対応のアドバイス**などで活躍してもらった。

- ・文章が秀でた人材には、**役員のスピーチライター**として在籍してもらっている。

- ・**CSR関連業務**に従事してもらっており、その仕事は対外的にも高く評価されている。

- ・**顧問として広報スキル・キャリアを活かす**仕事で活躍している。

- ・メディア出身者を雇用し、定期的な**新聞企画広告用の取材や編集**の担当として活躍してもらっている。

- ・ベテランOBを再雇用し、**専門技術や知識を活かし**活躍している。

- ・**機関誌（月刊、季刊）の編集**で活躍してもらっている。

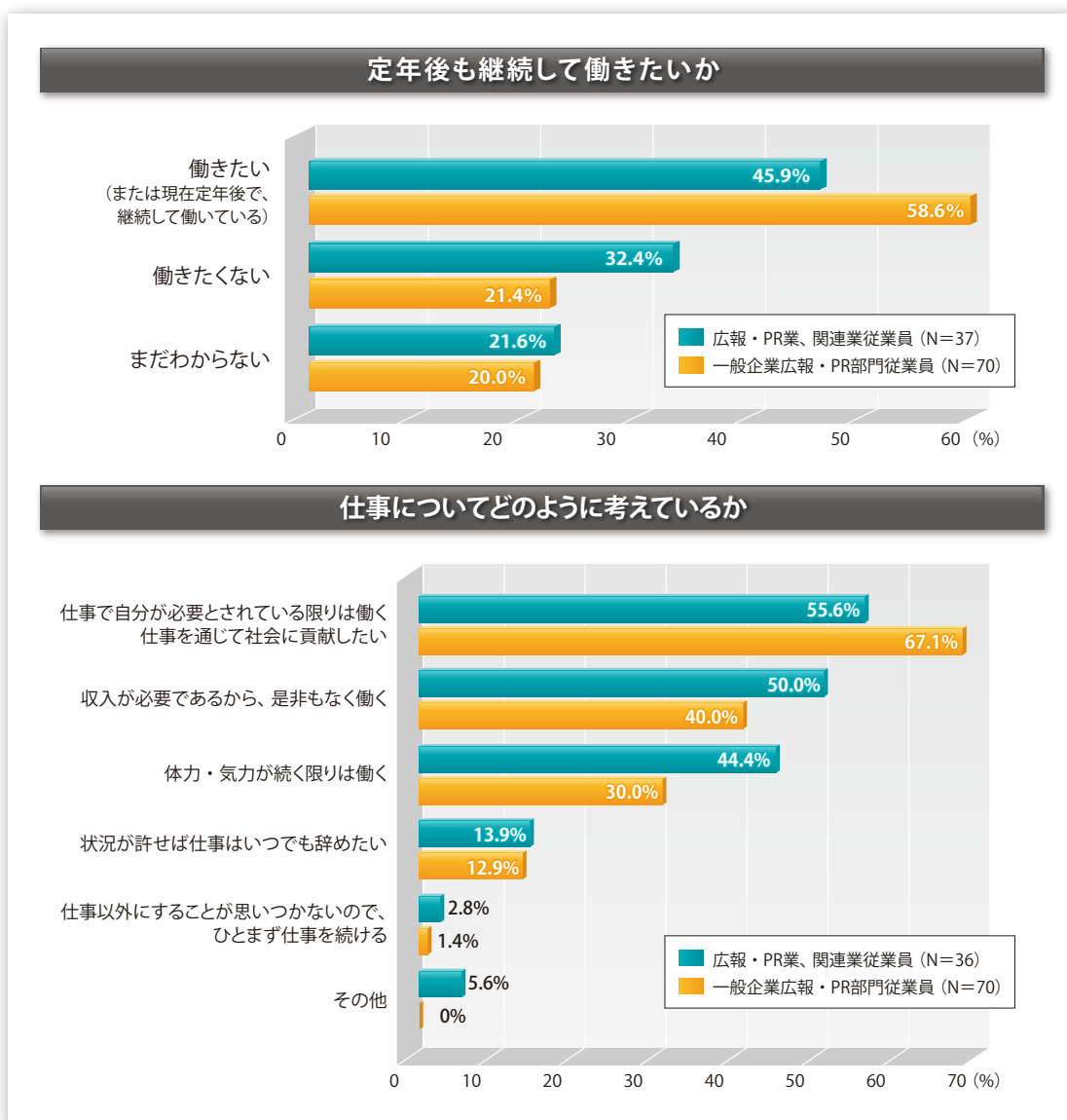
一般企業 広報部門

- ・**得意な英会話を活かした仕事**で活躍している。

広報・PR分野で働く人の意識

広報・PR業関連業においても半数弱、一般企業広報部門では6割弱の人が、「定年後も継続して働きたい」と考えています。

仕事を通じて社会に貢献したいという意識が高くなっています。



定年後も継続して働きたいかどうかについては、「広報・PR業、関連従業員」、「一般企業広報・PR部門従業員」どちらも「働きたい」という回答が多くなっています。

また、今後の仕事（広報・PR職を含む就労一般）については、「広報・PR業、関連従業員」、「一般企業広報・PR部門従業員」とともに「仕事で自分が

必要とされる限りは働く。仕事を通じて社会に貢献したい」という回答が多くなっており、社会とのつながりを求める意識の高さがうかがえます。